

第6次江南市総合計画市民会議 議事要旨 (第5回 第3分科会(行政分野))

日 時 平成29年1月24日(火) 9:30~11:30
会 場 江南市役所 第3委員会室
出席者 出席委員8名

■委員

《会長》	柴田 広美	ほていコミュニティ協議会副会長
《副会長》	早瀬 裕子	公募市民
	大脇 勇	公募市民
	豊島 正治	公募市民
	土肥 浩子	有限会社尾北ホームニュース編集
	福岡 恩	江南市まち・ひと・しごと創生総合戦略懇談会副会長
	坪内 俊宣	江南市総合計画策定部会(行政分野) 部会長
	村瀬 正臣	江南市総合計画策定部会(行政分野) 副部会長

■傍聴者

なし

◆議題

議題

(1) 基本計画(分野別計画)について

〈配付資料〉

資料1 江南市総合計画市民会議(第3回第3分科会)議事要旨

資料2 まちづくり会議からの意見について

資料3 第6次江南市総合計画の成果体系に基づく主な施策・事業の移動一覧表

資料4 江南市総合計画市民会議(第3分科会)での各柱の検討予定について(第5回~第7回)

◆会議結果

1 開会

事務局より挨拶。

2 市民会議

2.1 報告

(1) 第3回議事要旨の確認について

(会 長) 報告(1)の「第3回議事要旨の確認について」、事務局より説明をお願いします。

(事務局) ~ 資料1について事務局より説明 ~

(会 長) ただ今の説明について、ご意見等ありますか。

(委 員) 4ページの下から6行目の私の発言について、内容に間違いはないが、誤りを限りなく0に近づけることは重要であるが、100%なくなるものではないという事を発言したつもりなの

で、少し修正をお願いしたい。

(事務局) 内容を修正します。

(会 長) 他にご意見等ありますか。

～ 特に意見なし ～

(会 長) 特にご意見がないようですので、次に移ります。

(2) 江南市まちづくり会議からの意見について

(会 長) 報告(2)の「江南市まちづくり会議からの意見について」、事務局より説明をお願いします。

(事務局) ～ 資料2について事務局より説明 ～

(会 長) ただ今の説明について、ご意見等ありますか。

～ 特に意見なし ～

(会 長) 特にご意見がないようですので、次に移ります。

2. 2 議題

(1) 基本計画(分野別計画)について

(会 長) 議題(1)の「基本計画(分野別計画)について」、事務局より説明をお願いします。

(事務局) ～ 資料3、4について事務局より説明 ～

(会 長) ただ今の説明について、ご意見等ありますか。

(委 員) 資料3について、主担当課、副担当課と記載があるが責任者はどなたになるのか。

(事務局) 原則、一つの柱について、一つの課が担うことになっているので、その柱を担う課長が責任者になります。主担当課と副担当課の記載につきましては、組織再編の関係上、移動した施策や事務事業は、計画検討段階のこの市民会議分科会においては、現在、施策や事務を担当している担当課長が副担当課として説明、質疑応答させていただきます。

(委 員) 柱をいくつか束ねている部長は、それら全体に対しての責任者になるということか。

(事務局) その通りです。部長は成果体系上、柱を束ねる分野に当たるところになります。組織の関係上、一つの分野に対して一人の部長という形にはなっていませんが、極力、部長が分野をまたいだ柱を担う事がないよう整理をしています。

(委 員) 責任者には、実施責任者と結果責任者がある。市としての最終結果責任者は市長になると思うが、今の話を聞くと、それぞれの係などが実施責任者で課長が結果責任者ということになると思う。そういった考え方はあるか。もしないのであれば、そういう考え方を取り入れるようをお願いしたい。

(事務局) 各分野別計画の柱について、各課長の権限の下、事業の拡大・縮小・廃止など行政マネジメントを行い、個別目標に掲げた指標の目標達成を目指しているため、各課長は実施責任者であり、結果責任者であると考えます。最終的には、市長が結果責任者になります。

(委 員) たぶん、行政全体としてそういった考え方のコンセンサスが取れていないと思う。すぐに回答を求めているはないが、そういった考え方で物事を運営していかないと、責任があいまいになってしまうと思う。例えば、部長さんは具体的な仕事をするわけではないが、結果に対して責任を取らなければいけないと思う。そういった考え方を取り入れていくと、結果に対しての責任者が本気で物事を考えるきっかけになると思う。

(1. 1) 検討した柱の修正確認について

①V-8 議会運営への支援について

(会 長) ご意見等ありますか。

(委 員) 事務局回答分に関連して、全体目標の指標を意味あるものにするべきだという考えの下、発

言したもので、ほとんど上がらない指標を目標値とするのはいいのだろうかと思っただった。それに対する回答を確認すると、設問を増やすと回答率が落ちると推測されるという内容で、面倒なことになるからやめようという感じで捉えられる。問題があればそれをどう乗り越えようかという考えを持たないといけない。目標値がほとんど変わらず、これは議会に関心ある人の数値がそのまま移行してきているだけだと思う。もし、それが意味のないものであれば、内容を変えなければいけないと思うので、今一度、検討願いたい。

(事務局) 事務局回答について説明させていただくと、回答率の低下だけが理由ではなく、総合計画なので、市民意識について他の柱とも相対的な比較を行ったりするため、調査対象者は市民として、敢えて対象者を絞ることはしていません。

(委員) その辺りは理解している。しかし、意味のある指標かどうかという事は検討していただきたい。

(会長) アンケートは結果だけを求めるのではなく、普段関心のないことに対しても目を向けさせるための、発信の場という意味合いもあると思う。そういった点も踏まえて、今一度、指標の内容を検討してはどうか。

(委員) 全体的に成果目標のあり方については問題があると思うが、各担当課が考える現在のベストなものが掲載されていると思う。しかし、それに固執せずに、必要があれば見直していくことが必要。アンケート結果は、関心があり返信があった人達の結果であって、市民全体の結果だと思ってしまうと思う。アンケート以外にも自分達に必要な活動目標などを持つことは大変重要である。

(委員) この指標は今までと同じで、これが今後 10 年の目標であり、職員の方が目指す目標となるので、この内容では問題があると感じるので、見直しをお願いしている。

(事務局) 全体目標の内容の達成状況を測る指標を指標名としているので、内容としては同じ事を説明しています。例えば、指標名の見直しが必要という事であれば、全体目標の内容についても見直すことになるかと思いますが、それを検討する場であるので、よりふさわしい内容の全体目標や指標名について、ご意見をいただきたいと思います。

(委員) 今の理解は違うと思う。第 4 回分科会での議論は、議事課の活動の評価指標として、おかしいのではないかというものだった。結果として議会に興味のある人の割合という事と同じであるということだった。そのため、興味の有無を問い、分かりやすく感じているという人の割合を取るほうが正しいのではないかという話があったが、それは一度スクリーニングしなければいけないという事や他の指標と標本数が変わってしまうという事で、難しいという回答だった。結果として、10 年間でわずかしか上がらないような成果目標では元気が出ないなという意味もあって、指標を見直してはどうかという議論だった。従って、一度担当課で検討をしてもらいたいと思う。

(会長) 指標については、再度検討をしてください。

(1. 2) 柱の検討について

①分野V－柱1 市民生活について

(市民サービス課) ～ 分野V－柱1 市民生活について市民サービス課長より説明 ～

(会長) ただ今の説明について、ご意見等ありますか。

(委員) 個別目標①について、目標値として上がっていくのがいいのか、下がっていくのがいいのか迷う所ではある。消費者トラブルが増加傾向にあるという背景があるので、トラブル件数の減でもいいのではないか。

(委員) 個別目標①は「市民が安心して暮らすために、専門家による相談を受けた数」になるのではないか。相談を受けずに安心していている人もいるので、相談を受けて問題が解決された人の数ではないかと思う。

- (市民サービス課) 高齢化というのが大きな問題で、高齢化により市役所に相談に来る人以外の隠れた人達というのも多いのではないかと考えています。先程、委員からのご意見にもありましたが、指標として増えるのが良いのか、減るのが良いのか考える点があります。一度、検討したいと思います。
- (委員) 個別目標①の文章で、「専門家による相談を受け～」とあるが、地域の周りの人に相談して解決することもあるので、専門家だけにこだわらなくてもよいのではないかと。
- (会長) 市民としては、弁護士などの専門家の方が安心できるのではないかと。安心して相談できる環境が整っていると感じる市民の割合なども指標としていいのではないかと。
- (委員) ここでいう相談には、DVや子どもの虐待も含まれるのか。
- (市民サービス課) 相談の内容も幅広く、指標として捉えにくい部分はありますが、主なものとして消費生活相談と弁護士による相談としたのは、専門性が高い相談員が対応した件数を表すものとして、指標とさせていただきました。DV等の対応については、個別目標②の窓口サービスの向上で取り扱っており、具体的には、個人情報開示を制限するなどの対応をしています。
- (委員) 指標については市民にわかりやすくするために用いているものなのか。実際には、もっと多岐に亘った業務があり、この数値だけを目標にしているのではないと思うが、担当している業務がこれだけに見えてしまい、かえって全体の業務が見えにくくなってしまっている気がする。
- (市民サービス課) 全体目標の達成のための行政の取り組みである個別目標として、明確な数値を掲載できるものについては、こういった機会に個別指標として掲載することでお知らせした方がよいという判断で、このような指標を採用しています。
- (委員) 専門家による相談の件数は上がっていった方が、安心できる暮らしになるという考えか。
- (市民サービス課) 高齢化率が上がるに従って、被害に遭われる方も増加傾向にあります。そのような中で、相談体制が充実しており相談件数が増えるということは、安心できる暮らしにつながるという想定です。
- (委員) 未然に発生防止に仕組み、専門家への相談を減らすのか、起きてしまった事に対して充実した対応をするかの違いで、指標の設定は変わってくるので難しい。
- (委員) 消費生活相談だけでなく、様々な相談ごとを、その窓口に行けば解決までには至らなくても、対応してもらえるという仕組みなどがあれば、特徴的な行政として目立つと思うし、そういった市民相談をもう少し大きく取り出して検討できるといいと思う。もう一点、男女共同参画が入ってきて、何か無理が出てきていると感じる。「現状と課題」の下から2行目の“利便性の向上”がどこまでかかっているのか分かりにくいし、その後に男女共同が来ており、この柱で何をしたいか内容が分かりづらい。
- (委員) 同様に柱のタイトルも分かりにくい。なんで一緒になったのか。柱を分けてはどうなのか。
- (事務局) 冒頭で組織の話をしていただきましたが、人権などの事業の関連で男女共同を市民サービス課へ移動させています。表現の仕方は今一度検討させていただきます。組織の組み方については、市町により様々ですが、江南市はこういった形で進めたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。
- (会長) 課でいたい1本の柱で考えているということですね。
- (事務局) 切り分けていけば、柱が分かれるものもありますが、なるべく、近い業務や目的のものについては、同じ柱にまとめて、一つの柱を一つの課が担うようにしています。
- (委員) 先程、プライバシー保護の必要がある相談については、「窓口サービスの向上」という施策で取り扱っているという話がありましたが、相談窓口が一つになった「なんでもやる課」や「コンシェルジュ」といった考え方を持つかと解決されるような気はする。しかし、組織の関係もあるので難しいと思う。趣旨としては、統合することで計画内容に無理が生じていると

ころがあるが、実は、本当に統合しなければいけない業務が隠れているのではないかと気がする。

(委員) 市民サービス課の窓口へ行ったら、専門部署に案内してもらえたりすると良いと思う。

(市民サービス課) それは、市民相談で行っています。

(委員) それならば、そういった内容を掲載したらどうか。行政の使命などに書き込んでもいいと思う。

(委員) 市民サービス課で人権問題を取り扱っているのは知っていたが、そこに男女共同参画が統合されるということか。人権は男女共同の他にも様々なものを含んでいると思うが、男女共同だけがクローズアップされているので、事務移管によって移動してきただけなのか。この二つは分けられないような気がする。

(委員) 市民生活には全て関連してしまうが、この計画で言う市民生活は、こういった部分を含んでいますということを書ければ理解できると思う。市民サービス課の事務の括りとして、人権という括りの事務もあるという理解でよろしいか。

(市民サービス課) 人権の事業は取り扱ってはいますが、総合計画上で見せる施策のレベルとしては、人権という括りの施策はありません。

(委員) 男女共同参画について、指標にセミナーなどへの参加割合があるが、啓発するためにセミナーを開催さえすればよいというものではなく、男女共同参画の推進度合いを見るものとして、セミナーの参加率だけではないと思う。他にも審議委員会などの委員への女性の登用率などがある。ちなみに、現在の女性登用率はどれくらいか。

(生涯学習課) 平成 28 年度は 25.49%です。

(委員) 県の平均と比べるとどうか。

(生涯学習課) 県の目標は 37.5%となっているので、比較すると低いのですが、他の市町村も概ね 25%前後となっています。

(委員) 第 2 次こうなん男女共同参画プランを見ると、平成 24 年度時点で男女共同都市宣言をしているのは、県内で江南市 1 市だけとあるが、その後、他の市町でも宣言都市が出来ているのか。

(生涯学習課) 県内ではまだ江南市 1 市だけです。

(委員) それならば、もっと全面的にアピールしてもよいと思う。

(会長) 個別目標①の指標になっている「消費生活相談の件数」が平成 35 年度までは増えて、その後、横ばいとなっているが、これは何かあるのか。

(市民サービス課) 平成 29 年度に県が一宮市で行っている愛知県の消費生活相談事務が廃止される関係で、そちらに相談に行かれている人の増加を見込んでいます。その後の増加率は見通せませんが、来年度以降増加することは見込んでいますので、その数値を計上しています。

②分野 V－柱 3 政策・人事について

(秘書政策課) ～ 分野 V－柱 3 政策・人事について秘書政策課長より説明 ～

(会長) ただ今の説明について、ご意見等ありますか。

(委員) 職員研修はどういった研修があるのか。

(秘書政策課長) 内部研修と外部研修があり、人事が行う職責に応じた研修や、その他の研修以外にも、担当課から個別に専門研修に参加したりしています。

(委員) 例えば、地方創生推進課が市民協働を担っていると思うが、課をつなぐような横断的な研修を行ったりしているのか。

(秘書政策課) 研修にはテーマを設けて行っていますので、今年度ですと、管理職を対象に地域連携、地域経営といった内容の研修を実施しました。その際には、担当部署である地方創生推進課と連携を図って、研修内容や講師について相談するなど、必要に応じて関係部署と連携を取

- って研修を実施しています。
- (委員) 個別目標②に“政策形成とマネジメント能力を持った”とあるが、市民とのコーディネート能力というものが、今後は必要になってくると思う。それを含んでいるという理解でよろしいか。
- (秘書政策課) 委員の発言のとおり、知識詰め込み型だけでなく、外部とのコーディネート能力を高めるための研修も行っていく必要があると考えています。
- (委員) 研修に関する指標の目標値は100%にはならないか。
- (秘書政策課) 各職員も研修に対して目的を持って参加していますが、全ての職員の目的に合った内容とするのは難しいため、現在の目標値設定としております。また、その目的や意識のずれというのは、アンケートなどをフィードバックして次回の研修に役立てています。
- (委員) この指標は甘いと感じる。たいていの場合は研修を受けた直後というのは、有益と感じると答える人がほとんどだと思う。問題はそれが活用されたかどうかを確認すべきであって、その後、所属長が、研修成果が発揮されたかどうかを確認したり、受講者が事務に役立たせることができたかをアンケートで取ることが重要だと思う。
- (委員) フォローアップの考え方が大事ということ。
- (委員) もう一工夫すると、実効性のある指標、仕組みになると思う。
- (秘書政策課) 一度、検討します。
- (委員) 受講履歴はありますか。
- (秘書政策課) あります。
- (委員) 政策形成という言葉の意味はどのようなものか。
- (秘書政策課) 国や県から与えられた仕事を実施するだけでなく、自らが問題を発見し解決していくために、どういった施策や事業を作り上げていくかといったことを意味しています。
- (委員) わかりました。そういった自分達で作りに上げていく、解決していくということは重要だが、その事業について実行していくための実行力という点で問題はないか。
- (秘書政策課) 戦略計画が始まった時から、毎年度、各事務事業について行政評価を行い、事業の達成状況を確認しながら、事業の拡大縮小や新たな目標設定などを行っています。
- (委員) 今の説明は理解できるが、PDCAを回しているだけで逃げている部分もあって、チェックからアクションの間にどれだけ深い議論が出来ていて、そこでの課題訂正力や問題解決力を付けていくことが重要だと思うので、是非、きっちり取り組んでほしいと思う。
- (秘書政策課) 発言のとおり、チェックの部分が非常に重要だと考えていて、市の内部評価だけでなく、まちづくり会議などの市民会議で、市民の目から見たチェックも入れて、評価や次のアクションにつなげていきたいと考えています。
- (委員) なかなか、市職員の頑張りというものが見えにくいですが、以前、スマート運動の取り組みの発表会があったと思う。現在、発表会はないがそういった取り組みは続いているのか。市職員の頑張りが目に見えると市民としてはうれしい。
- (秘書政策課) 継続的な業務改善を実施するため、現在もスマート運動は継続していますが、発表会はありません。
- (委員) 生涯学習課で市政よもやま塾を開催していると思う。そこには市が行っている様々な施策が網羅されていて、先程の話に出てきている、市の取り組みを知るいい機会だと思うが、どれくらい活用されているのか。
- (生涯学習課) 生涯学習課の窓口にある申込みは年間に40件弱、直接担当課に申し込みがあったものを含めると年間309件です。
- (委員) 実績を聞いて、あまり活用されていないなという実感だ。あまり市民に知られていないかもしれないので、周知が重要かもしれない。
- (秘書政策課) 今後はPRに力を入れていくことも重要だと感じます。

- (会 長) 市の職員は職責を全うするための努力はしているかもしれないが、江南市への愛情を持った職員がどれくらいいるか疑問に思う。仕事以外にも地域活動などに参加している職員は少ないのではないかと感じる。
- (秘書政策課) 若手職員を中心に、市や仕事を愛することや、仕事にやりがいを持って取り組んでいけるような教育を実施するよう努めています。また、毎年度、人事評価において、管理職が面談を行い、どういう想いで仕事に取り組んでいるかなどを把握し、指導やアドバイスをを行っているところです。
- (委 員) 職員の方はよく勉強されていると思うが、その姿を市民の方に見てもらうことも大事だと思う。市の課題は市民の課題でもあるので、市民も問題意識を持つようにならなければいけないと思う。職員と市民が一緒になって、同じ研修を受けたり、同じ話を聞くということは、問題意識を共有するという意味でも有効であると感じる。
- (秘書政策課) 今後の研修計画の参考にさせていただきます。
- (委 員) 仕事の面では、やりがいを持って成果を出すということは大事だと思うが、一個人という面では、人生観、仕事観、価値観などの考え方が、それぞれ違って当然なので、一律の枠組みにはめるのは難しいと感じる。仕事と個人の枠組みを区別することは大事だと思う。老人クラブに携わっての実感だが、感想として述べさせてもらった。
- (委 員) 学供や公民館などの出先機関も、市民と市役所が接する機会だと思うので、そういったところで、良くなったなという変化を感じられるようになるといいと思う。
- (委 員) 講師の選定に難航するかもしれないが、市民が講師になるのもいいかもしれない。
- (秘書政策課) テーマによっては、そういったことも検討しています。

3 その他

次回会議日程について

- (事務局) 次回第6回分科会会議は1月31日(火)午後1時30分から第3委員会室で開催します。事前に資料を送付しますので、よろしくをお願いします。

4 閉会

- (事務局) 長時間に渡りご検討いただきまして、ありがとうございました。第5回市民会議(分科会)を終了します。本日はありがとうございました。